

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和 8 年度愛川町町民参加推進会議協働事業審査部会 (あいかわ町民活動応援事業)		
事務局 (担当課)		総務部デジタル・協働推進課 内線 3 2 4 3		
開催日時		令和 8 年 7 月 8 日 (水) 午後 1 時 3 0 分～午後 4 時		
開催場所		役場新庁舎 2 階 2 0 1 会議室		
出席者	委 員	5 人 (別紙のとおり)		
	その他	3 人 (応募団体の説明者)		
	事務局	4 人 (総務部長、住民協働課長、ほか 2 人)		
公開の可否		☒ 公開 ☐ 一部公開 ☐ 非公開		傍聴者数 2 人
非公開・一部公開の 場合は、その理由				
会議次第		1 開 会 2 あいさつ 3 委員及び職員の紹介 4 会長及び副会長の選出 5 会長あいさつ 6 議 題 (1) 令和 7 年度あいかわ町民活動応援事業の実績報告 (2) あいかわ町民活動応援事業概要及び審査部会の進め方について (3) 個別ヒアリング ①猫 保護活動 縁 ②特定非営利活動法人 JECSA 7 採 点 8 講 評 9 その他 10 閉 会		

審 議 経 過

(1 / 2 2)

※審議の要旨は次のとおり（○は委員の発言、□は応募団体の発言、●は事務局の発言）

1 開 会

2 あいさつ

3 委員及び職員紹介

4 会長及び副会長の選出

- ・委員の互選により、会長に古賀学委員、副会長に翁長陽子委員を選任した。

5 会長あいさつ

6 議題

（１）令和７年度あいかわ町民活動応援事業の実績報告＜事務局説明＞

○（Ａ委員） 小中学校の環境整備事業ですが、町内の小中学校のうち、何校で実施されましたか。

● 町内の小学校６校、中学校３校の合計９校ある中で、田代小学校を除く８校で、環境整備事業が実施された。

○（Ａ委員） 外国籍住民のサポート事業の日本語教室は、何か国語の方が参加して、開催されたのか。

● どの言語を母国としている外国籍住民が参加したのかまでの報告はあがっていませんが、昨年度、町の方に日本語教室に参加したいという問い合わせがあり、本事業の紹介した中では、中国やスリランカから来られた方をご紹介しているところですよ。

● 基本的にはスペイン語、ポルトガル語、など愛川町の特徴として、ペルー、ブラ

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

審 議 経 過

(2 / 2 2)

ジル人が多いため、これまでもスペイン語、ポルトガル語での相談窓口もありますし、併せて最近ではアジア圏の方が増えているため、やさしい日本語、第二言語として英語が使用できる方も多いため、そのあたりを使いながら、日本語や生活習慣を学んで頂くという形で開催されていたと聞いております。

○（Ｂ委員） 愛川町小中学校草刈り隊ですが、この補助事業としては最大継続年数である３年間で終わるが、今後も活動を継続するようなお話はあったのか。

● 今後も引続き活動を実施していく予定であり、補助金がないところでも、自分たちの出来る範囲で活動していくと伺っている。

● 町の方でも、現在、提案型協働事業として活動している寺子屋くすくすの木が以前、町民活動応援事業から、提案型協働事業に移行しましたが、今回の愛川町小中学校草刈り隊も提案型協働事業への移行はどうかとお話をさせて頂きましたが、提案型協働事業になると動きが制約されてしまう所があるということと、自分たちの収益や寄付も含めて、自立できるということで、単独でやっていきたいという団体側の申し入れがあり、今後は自分たちのできる範囲で継続していくと聞いている。

（２）あいかわ町民活動応援事業概要及び審査部会の進め方について＜事務局説明＞

（３）個別ヒアリング

① 【猫 保護活動 縁】

□ 申込団体からの事業の概略・ポイント等の説明（記載省略）

質疑応答

○（Ｃ委員） 努力して活動していることは分かるが、このような活動を行っている

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

審 議 経 過

(3 / 2 2)

という話は、自身の耳には入ってきていない。老人会や育成会などの町内の自治組織と連携して、事業の PR 活動を行なっていき、認知度を広めていった方が良い方向に進むと思う。

□ 地域にある野良猫診療所には、この活動を始めたことは伝えており、協力はしてもらっている。このような組織があることは分かっていたが、連携することまでは考えていなかったため、参考にさせていただく。

○（B 委員） 昨年度はプレ事業を実施し、全 6 事業に取り組んだと提案書に記載されているが、団体構成員 6 人でそれらの事業が可能だったのか。

□ 1 年間を通して取り組んだ内容を記載してみると、多くのことに取り組んだように思われるが、内容としては、野良猫がいる連絡をもらい、捕獲機を借りて捕獲機を設置し、捕獲、病院に連れて行く。その後、元の場所に戻すか、譲渡先の募集をかける。自分のネットワークでは、60 人ぐらいの友人がいるため、その方々に協力してもらい、一斉に譲渡先の募集情報を発信していただく。譲渡先が決まれば、その前に病院へ行き、色々な手続きや不妊去勢手術を行う。昨年度は、不採用となり個人での活動であったため、1 人で 2 頭ぐらいまでしか請け負えられなかった。昨年度は、野良猫の受け入れよりも、捕獲の仕方や餌のあげ方などが分からないという問い合わせが多く、団体構成員 6 人中、活動していなかった人を含めても、そこまで必要性は感じられなかった。

○（B 委員） 昨年度は 2 頭の野良猫を捕獲したということで合っているか。

□ はい、そうです。

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

審 議 経 過

(4 / 2 2)

○（Ｂ委員） その２頭の猫に対して、団体活動を行ったということで、捕獲した猫は、自宅で預かったということか。

□ はい。譲渡先の募集はかけたが、見つからずに自宅で保護している。未だに募集はかけており、譲渡先を探しているが、譲渡には至っていない。

○（Ｂ委員） 保護猫の譲渡先が見つからない場合には、自宅で保護しているということなのか。

□ そうです。

○（Ｂ委員） 保護猫の譲渡先が見つからない場合、自宅で保護するやり方だと、頭数が増えたときには息詰まってしまう可能性があるのではないか。

□ そのように思う。既に自宅には保護猫を含めず８頭飼っており、現在は、保護猫を２頭預かっている。今まで３０頭を超える保護猫の譲渡活動を個人で行っており、子猫の場合は、保護してすぐに譲渡先が決まるが、２～３年経過してしまうとなかなか譲渡先が決まらない。保護猫の譲渡をする際には、かかった費用のみを譲渡先からいただくが、他の保護猫団体の場合は、４～５万円は譲渡先からいただく話もあり、お金の関係で譲渡を渋る飼い主もいると聞いている。現在飼っている８頭は過去に保護したが、譲渡先が見つからなかった保護猫である。現在、２頭の保護猫がいるため、譲渡先が決まらないと新たに受け入れられない状況である。SNS等を活用して保護猫の譲渡先を募集したい考えはあるが、悪質な方もいるため、知人や友人経由で身元がはっきりしている方、もしくは自宅に行ける方、あとは連絡先の交換ができて、譲渡した後の６ヶ月～１年後にどんな形になっているかの連絡が取

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

審 議 経 過

(5 / 2 2)

れる方のみでやっているため、譲渡がなかなか難しく、自身の負担になるのは理解しているが、自宅の部屋に空きがあるということで、シニア、若者層と保護猫の3部屋に分けて飼育できている。この先、譲渡がなければ新たに保護猫を受入れられないということは分かっているが、現状は問題ないと思っている。譲渡先の確保という部分は、自身の中で一番の課題だと考えており、改善していきたい。

○（B委員） あくまでも譲渡はお知り合いの方を通して譲渡するという事で、今後そのやり方を継続したいという考えは分かった。譲渡に至るまでの間は、エサやシャンプー等、その他様々な費用が掛かかると思うが、そういった費用は、全部自身の負担という事なのか。

□ はい。今までは、自身の収入や家族の協力を得て活動していた。今回は応援事業に応募しているが、今後も変わりなくやっていきたいと思う。町外から2名、この活動に協力をしたいという声はいただいております、今年度は、町民からのボランティア募集にも力を入れていきたい。

○（B委員） ボランティアとは、保護猫を預かってくれるボランティアのことなのか。

□ それだけではなく、町内には、個人的に野良猫の保護活動を行っている方も各地区にもいるため、その方々とも今後はつながっていき、困りごとや野良猫の発見情報なども共有するなど連携をとっていききたいと思っている。

○（A委員） この事業は、何年ぐらい継続して活動していくつもりなのか。

□ できる限り続けていくつもりです。

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

審 議 経 過

(6 / 2 2)

○（Ａ委員） 先ほど活動費の問題など現実的な話もあると思うが、譲渡先の問題やいつかは活動に限界がくるなど、そういうことも想定されるが、その辺も含めて活動継続をする。また、この応援事業は、最大継続申請期間が３年間という事で４年目以降、自立という形になると思うが、それも含めて、活動継続していくという決意なのか。

□ 今回の申請の採用、不採用にかかわらず、平塚市の保護猫団体の方には、TikTokやYouTubeで、自分たちの活動内容を発信してみたらどうかと以前から言われており、自身は不得意で躊躇してきたが、今年度はその団体に助言をもらいながら、発信していこうと思っている。今後も個人で活動する分には、発信する必要はないと思っていたが、この活動を手伝ってくれる人がいたり、今後もし、ボランティアの方が増えた際には、その方々に負担がかかってしまうことを自身の中でも考えなければいけない所であり、少しでも収入がないと活動が出来なくなってしまうため、努力していきたいと思う。

○（Ａ委員） 現在の団体構成員は６人であるが、今後、会員を増やしていくつもりなのか。

□ はい。増やしていきたい。

○（Ａ委員） ボランティアとは別にとのことか。そういったことも踏まえて事業を継続させていくということか。

□ はい。

○（Ｄ委員） 行政とのかかわりや役割分担のことで確認したいが、最初、団体を立

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

審 議 経 過

(7 / 2 2)

ち上げようと考えた時には、愛川町役場のどちらかの課でこういった問題についての支援を得られないかの相談はしたのか。また、相談した際には、町からは何か支援について言われたのか、その辺のことでこういった活動をしてきたのか。

□ 野良猫の保護活動を始めた7～8年位前には、捕獲機がないと野良猫の捕獲が出来ないため、環境課に電話したところ、「こちらにはないため、厚木保健福祉事務所の方で借りるように」と言われて、借りに行ったことがある。その後、何か進展がないかと自身の飼い猫の不妊去勢手術の補助金申請にいった際にも聞いたが、進展がない様子で、受け答えの内容的にも保護猫に対する支援について、お願いするのは厳しいとその当時思っしまい、それから環境課へは1度も聞きにいったはない。厚木保健福祉事務所からは、一定数の猫を飼育している家庭には、飼育崩壊の問題があるため、定期的に連絡がいくようになっている。その連絡が来るたびに「活動はどうなっているのか。」、「何かあれば、連絡してください。」など言ってもらっているため、相談をしている。現在、町との連携は出来ていないため、今後は相談していければと考えている。

○ (D委員) 7～8年位前に問い合わせはしたが、町には捕獲機がないとのやり取りで終了し、それ以降、現在まで特に何もしていないということか。

□ はい。

○ (D委員) 厚木保健福祉事務所では、捕獲機を3週間位借りれるが、県では他に、野良猫の避妊去勢手術を無料で行っている。提案書に記載している避妊去勢の助成金とはどこからもらうことを想定しているのか。

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

審 議 経 過

(8 / 2 2)

☐ 愛川町の環境課であり、メスは5,000円、オスは3,000円の補助金が申請することでもらうことができる。

○(D委員) 提案書の支出の方で、補助対象経費の報酬・謝礼金の欄に手術検査費とあるが、何をする費用なのか。

☐ 手術前の血液検査費用となっている。

○(B委員) 提案書の収入の方で、寄付金及び持ち出しとあるが、例えば寄付金とは、どういう形で集めるのか。

☐ 野良猫を拾って来た方から、ただ保護してもらうのは申し訳ないという理由で頂いたものであり、持ち出しに関しては、自身で働いた給料や家庭から支出したお金である。

○(A委員) 提案書に捕獲器具レンタル代が12匹分と計上されているが、この事業において、年間何匹ぐらいを捕獲しようと考えているのか。

☐ 時間とお金がある限り要請には答えたいと思っているため、その上限として12頭を計上したものである。この事業が、補助金交付事業となり、寄付金が集まれば増えることもあると思う。

○(A委員) マンパワーとして、団体構成員が現状6人とその他ボランティアということであるが、その辺との兼ね合いを含めて、捕獲する野良猫の上限の線引きはしているのか。

☐ はい。団体構成員6人の中でお金のことなど話し合いは行っている。ボランティアも手伝ってくれる方に対して寄付金は一切求めないが、謝金も払っていない。

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

審 議 経 過

(9 / 2 2)

○(D委員) 提案書の支出の方で、捕獲器具レンタルでの1回につき3,000円というのは、こういった内容なのか。

□ 田代にある野良猫診療所で捕獲機のレンタルを行っており、補償金として3,000円が必要であり、捕獲機を返せばそのお金が戻ってくるものである。

○(D委員) レンタルをするために補償金を預けるが、捕獲機を返すことでそのお金は戻ってくるという事なので、実質は費用がかからないということか。

□ そうなります。

○(D委員) 捕獲機は、何週間ぐらいの期間借りることができるのか。

□ 2週間となります。

② 【外国籍住民に対するサポート及び国際交流事業】

□ 申込団体からの事業の概略・ポイント等の説明(記載省略)

質疑応答

○(A委員) 今後、団体名を改名するとのことであるが、提案書の団体の定款を確認すると、団体の活動目的がカンボジアの子供たちの支援を行うような記載があり、説明を受けるまでは、そこ限定するのかと思ったが、この事業に関しては、支援する国の対象をもっと広げるという考えでよいのか。

□ そうです。団体の総会が年に1度開催されており、今年だと今月開催が予定されている。今のところ理事の全会一致で可決される見込みとなっており、今後、アジアを中心に南米やアフリカなど幅広い国々を受け入れていくためには、現在のJECSAであると、支援対象はカンボジアに限られるのではないかと心配されている。

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

審 議 経 過

(1 0 / 2 2)

め、団体名を改めることで、外国籍住民全般を対象に支援しようと考えている。しかしながら、昔からカンボジアに対してのボランティア活動を積極的に行っているため、カンボジア支援で得た人脈等に残しつつ、今後の方針としては、グローバルな国際交流が出来るよう支援対象の国籍は問わず、活動をしていきたいと考えている。

○（A委員） 南米という言葉が出てきたが、以前の感覚だとブラジル、ペルー国籍の方が愛川町に多く住んでおり、現状でもペルー国籍の住民が多く住んでいると聞いているが、今年度はアジア周辺の外国籍住民の支援を中心に行い、南米周辺の国籍の外国籍住民は支援対象とせず、今後検討していくということなのか。

□ ブラジルなど南米のスペイン語圏、ポルトガル語圏の外国籍住民が愛川町では、多く住んでいることは、町ホームページでも確認しており、昨年度から、ブラジルの製品が販売されている町内のお店に訪問した際には、外国籍住民向けの日本語勉強会を実施している等のロビー活動をしている。しかし、本団体のことや、愛川町で日本語教室をやっていることを知ってもらう一歩が難しく、国籍ごとのコミュニティが集まるような各国の飲食店等のお店へ訪問し、国籍問わず受入れる体制を取ろうと昨年から活動しているが、参加者として多い国籍は、中国、ベトナム等の東南アジア系になってしまっている点で、スペイン語圏、ポルトガル語圏の方に警戒されてしまっていると推測しており、どのような活動をすれば参加してもらえるのかを団体で話し合っている。

○（A委員） 提案書内の事業に国際交流を目的とした清掃ボランティア活動とあり、

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

審 議 経 過

(1 1 / 2 2)

カンボジア寺院とベトナム寺院と具体的に施設名が記載されているが、施設が限定されているのは、このコミュニティの方との美化活動をするという意味合いなのか。それとも、宗教等そこに関係がない人も参加し、一緒に実施するということなのか。

□ 私たちが本当にやりたいことは、町内の道路や公園などの清掃ボランティアであり、それには自治会や行政との連携が必要となってくる。将来的な目標としては、清掃美化活動を町内在住の外国籍住民が行うことで、少なくなっているが、日本人の外国籍住民に対する偏見の解消など、以前、愛川国際交流クラブが実施していた活動を継承するような活動である。現在、団体活動として、クメール・サマキというカンボジアの寺院で毎週日曜日、日本語教室を行っており、そのお礼で清掃ボランティアをするなど、取り組みやすいところから実施している。タイの寺院も昨年度訪問し、活動への協力をお願いするなど、友好関係を築いている段階である。カンボジア寺院にいるカンボジア国籍の方々に、イスラム教徒やキリスト教徒等の多宗教の方が入ってくることには抵抗があるのか確認したところ、日本で生活しているのならば、そこの生活様式に従うのは当然であり、日本語教室に来る目的であれば問題ないと許可をもらった。今後は、その様な宗教を隔てない国際交流を図ることで、愛川町にとって外国籍住民同士も共栄共存することで、ユニークなプロジェクトになるのではないかと考え、そういうことで話題を作ることができれば、外国籍住民が町内で掃除活動をして、不審に思われず実施することができたり、日本人住民から理解を得ることができるのではないかと考えている。そのため、自分たちの行きやすい所から清掃活動をやっていきたいと考えている。

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

審 議 経 過

(1 2 / 2 2)

○（A委員） 本事業の参加者の年齢層はどれくらいなのか。

□ 授業を受けている方は、日本人の配偶者を持つ方が多く、昨年度、応援事業で活動していた際、5か国の方に参加してもらったが、30～40代がメインとなっている。理由としては、日常生活に直結した日本語を教えて欲しいという日本人配偶者からのお願いが主となっている。他には、工場で勤務しているが、生活に直結した日本語を少しでも学びたいという外国籍住民の生徒もいる。

○（D委員） 昨年度、応援事業として1年間取り組んだ中で、参加者の反応、評価や感想というのはどうだったのか。また、国籍によって国民性が違うが、事業を進めていった中で、上手くいった事例や思うようにいかなかった事例など課題もあると思うが、何が一番大きい部分であったか。

□ 日本語教室への参加者は、日本語が出来ないことは仕方ないため、次の言語として英語を使って説明しようと試みても通じないことがあり、タブレットを使用して対応ができたが、より時間がかかってしまった。日本語と英語が理解できない方々に日本語を教えるというのは、非常に難しい印象であった。今年度は、日本語の習熟度に合わせてクラス分けを行い、教室を開催しているが、日本語の上達レベルにも個人差があり、苦勞している。

□ 同じく苦勞話になるが、日本語と英語が通じない方へ日本語を教えるために翻訳アプリを使用しながら実施するため、時間がかかってしまう。また、日本語教室の場所や開始時間を事前に伝えていても、当日の開始直前に確認の連絡が来るなど、日本語教室の開催にいたるまでも難しく、コミュニケーションを取ることの大変さ

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

審 議 経 過

(1 3 / 2 2)

を感じている。そのため、もう少し参加者に理解してもらいやすくするための施策を考えた方が良いと感じた。

○（Ｂ委員） 提案書の支出の方で、補助対象経費の使用料・賃貸料で、日本語授業の教室場所代が計上されているが、どこで開催する予定なのか。

□ 昨年度の応援事業では、中津地区にお店を構えている喫茶店のスペースを借りして日本語教室を開催しており、今年度も同様の場所での開催も可能であったが、民間という事もあり、場所の使用料が高くつくため、他の場所も色々あっている。公共施設の会議室が理想ではあるが、近隣にある中津公民館では、利用するに抽選制となるため、同じ場所・時間での開催が難しく、トラブルが生じやすいため、長期間安定して安く借りることができる場所を探しているところです。

○（Ｃ委員） 本事業と類似した活動を実施している団体等をベンチマークするような活動はしているのか。

□ 以前、愛川国際交流クラブという団体が町内で活動していたことがあり、それを継承するようにカルチャークラブやお祭りなどを参考にした部分がある。外国籍住民も楽しくないと積極的に事業へ参加はしてくれないと考えており、ボランティア活動も「楽しい」や「面白そう」と思ってもらえるように、他団体のお祭りやイベントは参考している。

○（Ｃ委員） そういった活動を町民へ周知するために例えば、秋に町で開催されるふるさとまつりなどでブースを出し、活動写真を見せるなど、活動をＰＲするような活動はしていないと思うので、知ってもらえるような活動をした方が良いと思う。

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

審 議 経 過

(1 4 / 2 2)

また、国際交流を目的とした清掃ボランティア活動では、特定の寺院で行うのではなく、町で５月に開催されるごみゼロクリーンキャンペーンに地域住民と一緒に参加するなど、もっと住民の活動に入ったら良いと思う。

○（Ｂ委員） この事業の対象者の把握や事業の周知はどのように行っているのか。

□ 昨年度の応援事業では、事業のパンフレットを作成し、各外国籍住民が集まりそのようなコミュニティ等に出向き配布活動を行ったり、愛川町役場に日本語を覚えたいという相談に来られた方がいたら、情報提供してもらおうようにしていた。今後、事業のPR力の強化を考えており、内陸工業団地で外国籍住民が就労している企業を訪問し、日本語教室をアピールするロビー活動と今回の事業で新たに実施するYouTubeを活用した動画配信を行う。内容としては、日本語教室の授業風景、外国籍住民から見た愛川町の魅力について発信を行うなど、地域住民の方に団体活動を知ってもらう取り組みを行っていき、先ほど委員の方から意見としていただいた、地域の清掃活動やお祭りに参加しやすい環境づくりを行っていきたい。

○（Ｂ委員） 団体構成員が１４名でそのうち町民が４名であるが、これらの事業をどのように運営しているのか。

□ 町内在住の団体構成員は４名であるが、大学生のボランティアの方を多く集めている。カンボジア国際フェスティバルというイベントがあり、国際交流サークルなど色々な大学サークルが参加しているため、声かけを行い、協力者を募っている。現在、ボランティアを含め８～１０名程度が主導で活動しているが、今後より大きな事業を実施していくためには人員が必要という認識をしているため、実動力のあ

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

審 議 経 過

(1 5 / 2 2)

るボランティアの方々を増やしたいと思う。

○（B委員） 本事業の中で、外国籍住民向けの相談窓口を設置しているという事であるが、どこで開設しているのか。

□ 基本的には日本語教室をやっている場所と時間で設けている。今後、現在の時間内では足りないという声があれば、別日に設けるかは検討中である。相談にいつでも、たらい回しにされてしまう現状があるという話も聞くため、日常生活の困りごとに対するアドバイスや防犯指導ができる窓口にしていきたい。

7 審 査

8 講 評

○（C委員）

【猫 保護活動 縁】

- ・ 一人での活動ではうまくいかないため、何人かのチームで取り組んでいけたら、もう少し気も心も楽に事業が進められるのではないかと思う。
- ・ 行政区の方や PTA など地域の団体へ資料を持っていき協力要請したり、町で開催されるふるさとまつりでブースを出しての活動PR行うなど色々な活動ができると思う。
- ・ 平塚市で行われてる SNS 等を活用した活動 PR など、他市町村が実施している事例を参考とする姿勢は素晴らしいと思うので、今後も良いところを学んでいき、他団体より一歩進んだ活動に仕上げていって欲しい。

【外国籍住民に対するサポート及び国際交流事業】

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

審 議 経 過

(1 6 / 2 2)

- ・ 愛川町では、人口に対しての外国籍住民の比率が高く、今後も増加してくると思うので、このような活動がますます大事になってくると思う。
- ・ 町内には類似した活動を行っている団体が存在しているため、より一層そのような団体と連携をとっていったら良いと思う。
- ・ 令和9年4月から、新たに人材育成と人材確保を目的とした「育成就労制度」が施行されると思うが、そこに向けて日本語教育に悩みを抱えている企業が内陸工業団地内にも存在していると思うので、その企業と協力していけばより評価される事業になるのではないかなと思う。
- ・ 本団体と類似した事業を行っていて、一歩前を進んでいる団体の良いところを学ぶなどベンチマーキングの活動を実施して欲しい。

○ (D委員)

【猫 保護活動 縁】

- ・ 野良猫問題に悩んでいる地域の方にとっては、こういった活動を行っている団体があることは大変心強い存在であると思う。
- ・ 取り組み内容は素晴らしいものなので、他市町村の取り組み事例などを参考に、町の担当部署へ相談を行い、少しでも支援を取り付けられるようになれば、より継続的な活動がやっていけるのではないかなと思う。

【外国籍住民に対するサポート及び国際交流事業】

- ・ 本町で暮らす外国籍住民にとって一番の壁は言葉だと考えており、言語が通じないことで、ゴミの出し方や夜に騒いでしまうなどのトラブルになる。言葉の壁

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

審 議 経 過

(1 7 / 2 2)

や、文化の違いを理解することが、一番大事なことだと考えており、そういったトラブルが少しでも減少し、日本人と共存していく為の取り組みをしていることは素晴らしいと思う。

- ・ この活動に賛同し、一緒に活動をしてくれるボランティアの確保は大変だと思うが、本町ならではの苦労や逆にできることがあるので、試行錯誤をしながら、事業継続してくれればありがたいと思う。

○（A委員）

【町内小中学校の環境整備事業】

- ・ 野良猫が減少するということは、不幸にして望まない子猫が生まれないことで、単に今いる猫が減るということだけではないと思う。また、現実問題として、糞尿や猫同士の喧嘩などの苦情・騒音の関係で、私の近所でもよく聞いており、そういった問題にも少なからず地域貢献につながる事業である。
- ・ 継続的に取り組むということは大事であり、代表の方が個人のネットワークでいろいろな手段を用いたり、自費で活動を行っていることを伺い、なるべくそういうことではなく、継続的に進めるよう費用面も含めて、事業化し、今後も継続して欲しいと思う。

【外国籍住民に対するサポート及び国際交流事業】

- ・ 多国籍、多言語の中での共生社会という観点からも、本団体の取り組みは非常に有益だという印象を受けている。
- ・ 国籍が異なると、文化の違い等でトラブルが発生することがあり、生活に支障が

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

審 議 経 過

(1 8 / 2 2)

出ることは、身近なところで聞いているが、まずは言葉の壁を取り払って、コミュニケーションというものを大事にしようというところの色々な施策やアプローチの仕方はそれぞれあるかと思うが、相互理解が増えるということは、町民にとって非常に有益であると思う。

- ・ 団体活動の継続が大事だと考えており、現状 1 4 名のスタッフで活動しているが、多岐に渡った事業内容のボリュームからすると、資金面も大事であるが、マンパワーが非常に大事だと思うので、継続性というところを一層ブラッシュアップしてもらい、本町の地域環境の整備に寄与してもらいたい。

○ (B 委員)

【猫 保護活動 縁】

- ・ 団体構成員が少なく、事業の広がりや継続性を考えるときに、組織化することが必要で、構成員数を増やすことと、事業内容に猫の保護があるため、獣医師の方が入った方が、よりよい事業ができると思う。
- ・ 事業の周知活動がほとんど行われていないと思われるため、今後、色々なところで PR していくということになるが、状況では猫の受け入れに限界が来るのではないかと感じてしまう。そのため、団体構成員数及びボランティアの増加と獣医師が参加しての組織作りに取り組んで欲しい。もし、応援事業に採用され、3 年間継続できたとしても、それで終わる事業になるのではなく、これから持続性や継続性をもった事業としていくため、団体構成員数の増加を実現し、更なる事業の発展に期待している。

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

審 議 経 過

(1 9 / 2 2)

【外国籍住民に対するサポート及び国際交流事業】

- ・ 本町にとって外国籍住民の全体の割合が一割を超える現状において、とても重要な事業だと思うが、団体会員数が14人でそのうち町民が4人ということで、これだけの事業をするのはとても大変なことだと思う。
- ・ 団体構成員数及びボランティアの増加を図ることと、この事業の周知活動に取り組んでもらいたいと思う。
- ・ 提案事業の国際交流を目的とした清掃ボランティア活動で寺院の清掃活動をするということであるが、町でも色々な行事があるため、そこにも参加し、地域住民と交流を図ってもらいたい。

○（会長）

【猫 保護活動 縁】

- ・ 組織の体制の在り方は、最初にホスピタリティとして、個人の想いで行動するような活動があり、それからボランティア活動やNPOがあり、それから色々な法人が存在し、最後に株式会社があるような段階があると思う。今、本団体の組織は、まだ私的なものとボランティア活動の間のような、曖昧なところがあるような気がする。ボランティア活動であれば、全員がボランティアでないと意味がない。そこに個人的なお金や人件費などが入ってくると違ったものになってくる。獣医師にお金を払い手術の依頼をしようと言っていたが、本当は医者もボランティアで参加しなければいけない。猫の去勢手術等をボランティア活動として行っている獣医師もいるため、そういった体制を取るなど、どこに軸を置くかというこ

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

審 議 経 過

(2 0 / 2 2)

とを決めて活動を行った方が良いと思う。団体会員数が6人という組織体制を見ると、まだ個人的な活動に見えるため、しっかり組織化を目指していかないと応援事業の最大3年間の事業継続後の活動が難しくなってくるのではないかと思います。

- ・ この事業は他市町村でも実施している活動であるため、他の組織ではどうやっているかを参考に調査する活動をこの1年間で行い、その後2年目、3年目で自分たちの新しい組織を作っていくような形で、愛川町らしい特色があるような組織を作って欲しい。

- ・ 現在、町内に野良猫は何匹いるのかという調査を行った方が良いと考えており、学生にボランティアとして協力を依頼したり、巡回を増やすなどすることも必要である。

- ・ 収支の事業計画をしっかり立てた方が良いと考えており、ボランティアとして活動しているため、支出があるためには収入がないといけないため、そこを会費でやるのか、今回はもしこの事業が採択され、補助金が入るのであれば、活動ができると思うが、その後、補助金がなくなった後はどうするかという中長期的な事業計画も作っておいた方が組織としては良いと思う。

- ・ 会員の増加が収入の増加につながるため、そこを押さえることが、ボランティア活動を助けることになるため、組織をしっかりと作っていくことが大切だと思う。

【外国籍住民に対するサポート及び国際交流事業】

- ・ この事業の組織としては、ボランティアとNPOの間ぐらいの組織になっている。本団体はNPOであるため、収入があって支出するという収支ゼロという組織でな

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

審 議 経 過

(2 1 / 2 2)

ある必要があるため、しっかり押さえた方がいいと思う。

- ・ NPO はその地域振興に貢献する組織であるので、収益は考えなくていいが、収入はありきで支出があるという形をとらないと活動の継続は非常に難しく、そこをボランティアに頼っているところがあるため、今後改善を目指して欲しい。
- ・ 提案内容を聞いていると、将来的には学校になるのではないかと思う。学校で授業をやるようなレベルにならないよう NPO の事業として、どの程度までやるのかというところを明確にしておいた方がいいと思う。
- ・ 団体の定款内の活動目的のところに、カンボジアの子供達のためにと書いてあり、今回の提案内容を確認すると、外国籍住民と記載されている点について、話の中では支援の対象を広げていくとのことであったが、カンボジアの方のためなのか、外国籍住民全体のためなのかを明確に記載した方が良く、現在は、組織の作り方と少しずれていると思う。
- ・ 補助金を貰うということは、ボランティアを補うようなイメージがあるが、そうではなく、事業であり収支を明確にして、事業が成り立つような形にして、今後それが NPO として、あるいはボランティアとして、しっかりとした組織の形で活動できるようにって欲しい。

7 その他（事務連絡）

（会議録の承認は、会長に一任することで決定する）

8 閉 会（会長副会長）

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

会長(委員長)
署名欄

古賀 淳

愛川町町民参加推進会議協働事業審査部会委員名簿

任期：R8.4.1～R10.3.31

氏 名	選出区分	備 考	出 欠
田 所 浩	公募による町民		出 席
小 林 文 雄	公益活動に実績のある者		出 席
翁 長 陽 子	町の各種施策に知見を有する者	副会長	出 席
佐 藤 隆 男			出 席
古 賀 学	専門委員	会 長	出 席